

鹿児島県侵略的外来種カルテ

平成29年3月

1979年に奄美大島に導入されました。県本土でも確認されましたが、侵入経緯は不明です。鹿児島県では緊急防除種、環境省では特定外来生物に指定され、奄美大島、鹿児島市喜入地区、薩摩川内市、南さつま市で確認されています。奄美大島では、アマミノクロウサギなどの固有種を捕食する影響が出ています。国や県では根絶を目指しています。マンゲースを見つけたら、奄美大島では環境省奄美野生生物保護センターに、本土などでは県自然保護課か市町村に速やかに連絡をお願いします。新鮮な情報が、その後の捕獲成功につながります。

1 基本情報

分類

目・科名	ネコ目マンゲース科	
種名(亜種名)	フイリマンゲース	
学名	<i>Herpestes auropunctatus</i>	
環境省カテゴリー	特定外来生物 緊急対策外来種	
県カテゴリー	緊急防除種	
由来	国外由来外来種	
侵略的外来種番付表	大関(島嶼)	
番付表掲載の理由	知名度の高い外来種	
その他カテゴリー (日本生態学会ワースト100/IUCN世界の侵略的外来種ワースト100)	世界の侵略的外来種ワースト100 日本の侵略的外来種ワースト100	
侵入・定着の状況		
自然分布域	東南アジア	
県内初報告	奄美大島は1979年頃、県本土は1980年以前	
県内への侵入の経緯	奄美大島におけるマンゲースの導入については、1979年(昭和54年)頃に名瀬市(現・奄美市名瀬)西部の赤崎地区で放獣されたものに由来すると考えられているが、放獣時の正式記録は残っていない(出典:『平成27年度奄美大島におけるフイリマンゲース防除事業報告書』(2016年7月)等) 県本土は、導入の時期及び理由ともに不明	
県内の侵入分布	奄美大島、鹿児島市喜入地区、薩摩川内市、南さつま市	
全国の侵入分布	沖縄島、奄美大島、鹿児島県本土(鹿児島市喜入地区) 2012年鹿児島県薩摩川内市、2016年南さつま市でも確認されたが定着の有無は不明	
生態学的特性		
生態	食性は雑食性で、小型ほ乳類、鳥類、は虫類、昆虫類、果実などを食べる。 昼行性で群れを作らず単独で地上の巣穴で生活する。アマミノクロウサギなどの巣穴に入り餌の探索をする。	
形態	頭胴長25～37cm、尾長19.2～29.0cm、体重はオス600～1,000g、メス400～600gでオスの方が大きい。腹部を除いて黒～褐色と黄白色の毛に覆われる。細長い体型で前後の足は短い。頭部は細長く、鼻先はとがる。尾は根元が太く、先端に行くほど細くなる。耳は短く丸い。雌雄とも肛門近くに臭腺があり、悪臭を放つ。	
繁殖形態	繁殖期は年1回で、交尾期は1月～8月。出産期は3月～10月、妊娠期間は6～7週間である。産子数は平均2.08頭。	
生息環境	奄美大島では、海岸から原生林まで、市街地を除くあらゆる環境に生息している。 県本土では、耕作放棄地、荒地、竹藪及び果樹園などの開けた環境に生息している。	
特記事項	県本土では2009年～2011年に鹿児島市喜入町及び薩摩川内市で防除が行われ、その後確認されていなかったが、2016年に南さつま市で、新たに1頭が確認された。 特定外来生物なので、学術研究や教育などを目的として、あらかじめ申請して許可を取得した場合を除き、飼育、保管、生きたままの移動等はできません。	

2 影響	
被害の実態・おそれ ①生態系にかかる被害 ②農林水産業への被害 ③人の生命身体への被害	①小型ほ乳類、鳥類、は虫類、両生類、昆虫類の捕食。奄美大島では、希少種や固有種の捕食が確認されている。 ②養鶏への被害、バナナ・マンゴー・柑橘類などへの被害。 ③人獣共通感染症の媒介。沖縄でレプトスピラの保菌が知られ、西インド諸島では狂犬病ウイルスも検出されている。
県内で特に予想される被害	小型ほ乳類、鳥類、は虫両生類、昆虫類の捕食。奄美大島では、希少種や固有種の捕食が確認されている。 養鶏、バナナ・マンゴー・柑橘類などへの被害。
被害をもたらしている要因 ①生物学的要因 ②社会的要因	①天敵の不在。 ②ハブ対策として奄美大島に導入。
3 対策	
フィリマングースを見つけたら	根絶を目指しています。奄美大島では環境省奄美野生生物保護センターに、本土などでは県自然保護課か市町村に速やかに連絡をお願いします。新鮮な情報が、その後の捕獲成功につながります。
見分け方	フィリマングースの体はテンより小さく、イタチより大きい。イタチの体色は褐色がかっているが、フィリマングースの体色は黒～褐色と黄白色である。また、フィリマングースの尾は根元が太く先細りしている。
見かけやすい場所・時間	昼行性であり、基本的に昼間に見られる。本土では、耕作地周辺などの開けた環境で見られるが、奄美大島では森林内など、さまざまな環境で見られる。
防除方法	わなによる捕獲など。奄美大島では、捕殺わなが使用されている。毒餌や探索犬を使用した捕獲など、新たな防除技術開発も進められている。奄美大島では、2017年から毒餌による防除を試験的に行っている。
防除の取組事例	奄美大島、沖縄島では、長年にわたる捕獲と防除の研究が進められており、平成32年までの根絶を環境省が目標として掲げている。2000年頃には約10,000頭が生息していた奄美大島のフィリマングースは、2012年には上限値でも300頭以下にまで減少したと推定されている。
その他	—

参考資料・参考URL	国立研究開発法人国立環境研究所 侵入生物データベース https://www.nies.go.jp/biodiversity/invasive/DB/detail/10210.html 環境省奄美野生生物保護センター 外来種対策 http://amami-wcc.net/efforts/alien-species/ Nature of Kagoshima 鹿児島県自然環境保全協会 http://www.kagoshima-nature.org/category/back-number/ 鹿児島県 マングースを発見したら http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/mangu-suver2.html 鹿児島県 マングース捕獲対生整備マニュアル https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115137-1.pdf 鹿児島県 鹿児島県マングース防除実施計画(本文) http://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115058-1.pdf 鹿児島県 鹿児島県マングース防除実施計画(資料編) https://www.pref.kagoshima.jp/ad04/kurashi-kankyo/kankyo/yasei/gairai/documents/39057_20140507115121-1.pdf 哺乳類科学 鹿児島県本土に生息するフイリマングースHerpestes auropunctatusの根絶の可能性と在来種の生息状況について https://www.jstage.jst.go.jp/article/mammalianscience/55/2/55_167/_pdf
-------------------	--